

味酒	三輪乃山	青丹吉	奈良能山乃	山際	伊隠萬代
味酒	三輪の山	あをによし	奈良の山の	山の際に	い隠るまで
うまさけ	みわのやま	あをによし	ならのやまの	やまのまに	いかくるまで
(枕詞)	三輪の山が	(枕詞)	奈良山の	山際に	隠れるまで
道隈	伊積流萬代介	委曲毛	見管行武雄	數々毛	見放武八萬雄
道の隈	い積るまでに	つばらにも	見つつ行かむを	しばしばも	見放けむ山を
みちのくま	いつもるまでに	つばらにも	みつつゆかむを	しばしばも	みさけむやまを
曲がり角が	重なるまで	何度も何度も	見つつ行きたい	何回も何回も	見やりたい山を
情無	雲乃	隠障倍之也			万葉集 卷一 17 額田王
情なく	雲の	隠さふべしや			
こころなく	くもの	かくさふべしや			
無情にも	雲が	隠していいものか			